

令和6年度

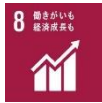
佐潟周辺自然環境保全計画評価シート



令和4年11月19日(土)「佐潟探検隊第4回」

佐潟で活動する事業等の令和5年度取り組み評価シート

表. 第4期佐潟周辺自然環境保全計画の目標と取り組み項目一覧

基本的な方針	目標	取り組み項目
【基本的な方針Ⅰ】 生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人との関わりのなかで多くの動植物が生息・生育する環境を守り育てていく。	目標(1) 多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり   	ア 潟固有の水生植物が生息しやすい環境をつくる イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる ウ 外来動植物が生息・生育しないための効果的な駆除対策を行う エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる オ 魚介類が生息しやすい環境をつくる カ ブラックバスなどを入れさせない防止活動を進める キ ゾーニングの手法を用いて守り育てる環境保全方法を検討する
	目標(2) 佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全    	ア 緑地帯を保全する イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する ウ 適正な水位管理を実施する エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う
	目標(3) 調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進    	ア モニタリング調査を継続して実施する イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する ウ 潟の研究を多面的にすすめる
	目標(4) 昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり     	ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する イ 地域文化を発掘、継承し、発信する ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る エ 佐潟及び佐潟周辺地域を核とした持続可能な地域づくりを推進する
	目標(5) 福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進   	ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる
	目標(6) 佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開  	ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する イ ラムサール条約登録湿地間の連携、ガンカモ類保護ネットワークの構築を行う
【基本的な方針Ⅱ】 先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。		
【基本的な方針Ⅲ】 市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。		

基本的な方針Ⅰ

生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人との関わりの中で多くの動植物が生息・生育する環境を守り育てて

目標（１）多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり

取り組み項目：ア 潟固有の水生植物が生息しやすい環境をつくる

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
ハスの生育調査	激減したハスの生育状況調査を行う。		令和5年5月12日(金) 令和5年5月27日(土) 令和5年5月30日(火) 令和5年6月6日(火) 令和5年8月24日(木) 令和5年9月23日(日) 令和5年10月19日(木) 令和5年11月25日(土)	1	5月に水質改善と湿地の攪乱、水生植物の発芽促進を目的とした佐潟下潟の水抜きを実施。その際にハス苗の植栽を行った。	ハス苗は板で囲いをした苗が成長し、開花に至った。下潟での開花は2018年以降5年ぶりの開花となった。囲いを行わなかったハスはカメ等の食害があり、成長できなかった。今後はカメ等の食害からの保護が課題となる。		(公財)新潟県都市緑花センター
エコトーン整備	自然生態観察園に設置したエコトーン の整備と活用を行う。		令和5年5月27日(土) 令和5年6月6日(火) 令和5年8月24日(木) 令和5年9月23日(日) 令和5年10月19日(木)	1	調査および手入れを実施。ヤナギトラノオの生育を確認したが、昨年まで見られたミズアオイ、デンジソウの生育は確認できなかった。水深の深いエリアではヒメガマが繁茂する他は他の植物出現は見られなかった。	エコトーン周囲の木が成長し、日照不足になりつつあるほか、種子の供給や土壌の攪乱が不足しているため、目的とした希少植物の生育が見られなくなっている。エコトーン周辺の樹木の枝払いを行う他、種子の供給や攪乱を目的とした佐潟底泥の搬入を行いたい。		(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		令和5年5月27日(土) 令和5年6月6日(火) 令和5年8月24日(木) 令和5年9月23日(日) 令和5年10月19日(木)	1	重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、シラスゲ、スジスマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、ミズアオイとサデクサは数株のみ、オニバスは今年も生育初期にわずかに確認されたのみで、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。	オニバスやミズアオイ、サデクサなどの一年草は土壌の攪乱や水位変化により種子に光が当たることによって発芽する。今年度は下潟の水抜きを行い、湿地の攪乱と水位変化を人為的に起こしたが、今年度に関しては効果は見られなかった。ただし、上記の効果は2年目以降に現れることが多い為、継続して実施し、効果を検証したい。		(公財)新潟県都市緑花センター
佐潟ハス復活プロジェクト	衰退したハスの復活を目指してハス苗を育成する。 ①ハスの芽出し作業 ②水門ゲートの水位調整を行う ③株分け、トロフネに移し替え ④ハス田塩ビ管敷設、育成棚設置（2カ所） ⑤育てたレンコンを水位の下がった潟に直接移植 ⑥ペットボトルで育てたハス苗を佐潟から汲み上げたドロ入りバケツに移植 ⑦移植したハス苗を金網で囲う（2カ所） ⑧出前授業、ハス田観察会（ハスの実を試食、象鼻杯を体験） ⑨レンコン掘りを行う ⑩中間報告を行う	   	①令和5年5月12日(金) ②令和5年5月16日(木) ③令和5年5月21日(日) ④令和5年5月27日(土) ⑤令和5年5月30日(火) ⑥令和5年6月6日(火) ⑦令和5年6月11日(日) ⑧令和5年9月22日 ⑨令和5年10月19日 ⑩令和6年2月24日	①30人 ②1人 ④9人 ⑤30人 ⑥30人 ⑦7人 ⑧30人 ⑨30人 ⑩50人	湿地センター前に6年ぶりにハスの花が咲いた。ハス復活プロジェクトの総括の報告会を2月24日、開催した。講演会ではアカミミガメなどの外来種について学習し、文化的側面を考慮して駆除して、生態系全体の質を高めることが大切であることを学んだ。ハス衰退の原因として「利用管理の減少」「水質の悪化」「外来生物による影響」が考えられることが分かった。	今年度取り組んだ水門ドロ吐き操作による一斉排水、水位低下時の木枠設置、移植などを報告した。また、アカミミガメにより苗が被害にあっことも説明した。今後は「水抜きの継続、アカミミガメの駆除、利用などを進め、自然環境の循環を目指したい。来年度は設置する木枠の数、大きさを再検討し、ハスの個体数を増やしたい。ハスの復活だけでなく、里潟佐潟の再生を目指すことが課題といえる。		佐潟と歩む赤塚の会

取り組み項目：イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
エコトーン整備【再掲】	自然生態観察園に設置したエコトーン の整備と活用を行う。		令和5年5月27日(土) 令和5年6月6日(火) 令和5年8月24日(木) 令和5年9月23日(日) 令和5年10月19日(木)	1	調査および手入れを実施。ヤナギトラノオの生育を確認したが、昨年まで見られたミズアオイ、デンジソウの生育は確認できなかった。水深の深いエリアではヒメガマが繁茂する他は他の植物出現は見られなかった。	エコトーン周囲の木が成長し、日照不足になりつつあるほか、種子の供給や土壌の攪乱が不足しているため、目的とした希少植物の生育が見られなくなっている。エコトーン周辺の樹木の枝払いを行う他、種子の供給や攪乱を目的とした佐潟底泥の搬入を行いたい。		(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		令和5年5月27日(土) 令和5年6月6日(火) 令和5年8月24日(木) 令和5年9月23日(日) 令和5年10月19日(木)	1	重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、シラスゲ、スジスマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、ミズアオイとサデクサは数株のみ、オニバスは今年も生育初期にわずかに確認されたのみで、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。	オニバスやミズアオイ、サデクサなどの一年草は土壌の攪乱や水位変化により種子に光が当たることによって発芽する。今年度は下潟の水抜きを行い、湿地の攪乱と水位変化を人為的に起こしたが、今年度に関しては効果は見られなかった。ただし、上記の効果は2年目以降に現れることが多い為、継続して実施し、効果を検証したい。		(公財)新潟県都市緑花センター

取り組み項目：エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる								
事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
鳥類標識調査	環境省管轄（山階鳥研主導）の全国的な渡り鳥調査に参加し、定期的に実施する。		令和5年5月20日（日）、 10月21日（土）～11月8日（火）	-				佐潟鳥類標識グループ
目標（2）佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全								
取り組み項目：ア 緑地帯を保全する								
事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
西区佐潟公園樹木芝生等 管理業務委託	公園を構成している植物の生理・生態的特徴を十分理解して健全な育成を図り、植物空間の充実・完成をさせ、公園機能を維持するために技術的管理を行う。	 	令和5年5月～令和6年3月	-	令和5年5月8日～令和6年3月15日までの期間に樹木芝生等の維持管理を継続的に実施した。	植物の健全な育成に必要な維持管理を行うことで、公園機能を確保し、公園利用者への環境整備を図った。		西区建設課
取り組み項目：イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する								
事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
水質調査	佐潟5ヵ所、御手洗潟3ヵ所について毎月1回水質測定を行う。		毎月1回	-	佐潟5ヵ所、御手洗潟3ヵ所について毎月1回水質測定を実施した。	水環境の把握とともに保全のための基礎資料とする。		環境対策課
佐潟再生事業	水路「ど」の再生を実施し、湧水確保及び水質改善を図る。	  	令和5年8月25日から9月30日	-	枯れたヨシ等の堆積による陸地化防止や湧水確保を目的に過去整備した水路「ど」を再生した。併せて地域団体が野鳥観察舎付近のヨシ刈りを実施。	整備直後には湧水箇所を確認した。実施後の採水結果では下潟から逆流の影響が見受けられたが、徐々に数値が安定し始めている。また、栄養塩類（窒素・リン）の潟外排出や浅水域創出による生物多様性の確保、陸地化防止・景観改善のため、ヨシ刈りを継続していく必要がある。単に面積を拡大するのではなくモニタリング調査等で、希少植物の生育状況や野鳥のねぐらへの影響を検証するなど、ヨシ原の適正な管理が課題となる。		環境政策課
身近な水環境の全国一斉調査	世界環境デーに合わせて全国で河川、湖沼の水質調査を一斉に行う。		令和5年6月1週	新潟水辺の会を中心に4名	新潟市を流れる河川に比べ、新潟市の湖沼の水質が悪く、特に佐潟・御手洗潟が毎年特出している。	佐潟・御手洗潟周辺の砂丘地で、生業を営む農家と一緒に未来の子孫の為、潟の水質及び多様性を考える場を設ける事が望まれる。		新潟水辺の会
取り組み項目：エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う								
事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
佐潟周辺自然環境保全連絡協議会の開催	佐潟に関わる団体や有識者から出席いただき、佐潟に関する様々な取組みの報告や保全と賢明な活用に向けた検討を行う。	  	令和5年8月7日（月）： 第37回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会 令和6年3月27日（木）： 第38回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会	第37回：11人 第38回：7人 ※市関係各課を除く	令和5年8月7日に第37回自然環境保全連絡協議会を対面形式で開催した。 令和6年3月27日に第38回自然環境保全連絡協議会を対面形式で開催した。	水質改善に向けて水位に変動をつけるため、方向性として保全計画に沿って水位管理を継続することを確認。極端に水位を低下させることで、潟の水の入れ替えを回り水質に変化が見られるかを検証していく。ハスの自生環境整備とアオコ抑制が課題である。		環境政策課

目標（３）調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進							
取り組み項目：イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する							
事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
希少植物の調査 【再掲】	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		令和5年5月27日(土) 令和5年6月6日(火) 令和5年8月24日(木) 令和5年9月23日(日) 令和5年10月19日(木)	1	重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、シラスゲ、スジヌマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、ミズアオイとサデクサは数株のみ、オニバスは今年も生育初期にわずかに確認されたのみで、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。	オニバスやミズアオイ、サデクサなどの一年草は土壌の攪乱や水位変化により種子に光が当たることによって発芽する。今年度は下潟の水抜きを行い、湿地の攪乱と水位変化を人為的に起こしたが、今年度に関しては効果は見られなかった。ただし、上記の効果は2年目以降に現れることが多い為、継続して実施し、効果を検証したい。	(公財)新潟県都市緑花センター
新潟県水鳥湖沼ネットワーク等との連携	新潟県水鳥湖沼ネットワークや佐潟水鳥・湿地センターからの情報提供を受け、ホームページで紹介した。		令和5年10月～令和6年3月	-	毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークや佐潟水鳥・湿地センターからの情報提供を受け、ホームページで紹介した。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。	環境政策課

基本的な方針Ⅱ

先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。

目標（４）昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした 地域づくり

取り組み項目：ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
佐潟ハス復活プロジェクト 【再掲】	衰退したハスの復活を目指してハス苗を育成する。 ①ハスの芽出し作業 ②水門ゲートの水位調整を行う ③株分け、トロフネに移し替え ④ハス田塩ビ管敷設、育成洲設置（2カ所） ⑤育てたレンコンを水位の下がった潟に直接移植 ⑥ペットボトルで育てたハス苗を佐潟から汲み上げたドロ入りバケツに移植 ⑦移植したハス苗を金網で囲う（2カ所） ⑧出前授業、ハス田観察会（ハスの実を試食、象鼻杯を体験） ⑨レンコン掘りを行う ⑩中間報告を行う	   	①令和5年5月12日(金) ②令和5年5月16日(木) ③令和5年5月21日(日) ④令和5年5月27日(土) ⑤令和5年5月30日(火) ⑥令和5年6月6日(火) ⑦令和5年6月11日(日) ⑧令和5年9月22日 ⑨令和5年10月19日 ⑩令和6年2月24日	①30人 ②1人 ④9人 ⑤30人 ⑥30人 ⑦7人 ⑧30人 ⑨30人 ⑩50人	湿地センター前に6年ぶりにハスの花が咲いた。ハス復活プロジェクトの総括の報告会を2月24日、開催した。講演会ではアカミミガメなどの外来種について学習し、文化的な側面を考慮して駆除して、生態系全体の質を高めることが大切であることを学んだ。 ハス衰退の原因として「利用管理の減少」「水質の悪化」「外来生物による影響」が考えられることが分かった。	今年度取り組んだ水門ドロ吐き操作による一斉排水、水位低下時の木枠設置、移植などを報告した。 また、アカミミガメにより苗が食害被害にあったことも説明した。今後は「水抜きの継続、アカミミガメの駆除、利用などを進め、自然環境の循環を目指したい。来年度は設置する木枠の数、大きさを再検討し、ハスの個体数を増やしたい。 ハスの復活だけでなく、里潟佐潟の再生を目指すことが課題といえる。	佐潟と歩む赤塚の会
ラコテ赤塚	佐潟水門下ゴミ拾いを行う。	 	令和5年5月27日(土) 令和5年8月27日(日)	9人 9人	水門下流域の道路沿いの空き缶などを回収した。	ボイ捨てゴミは少なくなってきた。一方、人目につかないように藪の中に押し込んでいるゴミもある。	佐潟と歩む赤塚の会
潟普請・佐潟クリーンアップ活動	水門付近の保全、ハス田への泥上げなどを通して佐潟の現状を確認する。	  	令和5年9月23日(土)～24日(日)	中学生、大学生、民間企業などの協力を得て延べ100人参加	ヨシは近くの畑に運び、地元の農家が肥料として再利用した。希少種の埋土種子が含まれるドロ約800リットルを観察園の池に投入し、人為的かく乱を起こした。	ヨシの運び出しが予想以上に早く終わった。参加人数に応じた作業量の確保が必要だった。	 佐潟と歩む赤塚の会
春の潟普請	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	  	令和6年3月30日(日)	20人	当日、天気は良かったが風が強く肌寒かった。例年に比べて散乱しているゴミは少なかった。	新潟大学の学生らも参加。上潟の大清水まで歩き、湧水箇所を確認できた。	佐潟と歩む赤塚の会

取り組み項目：イ 地域文化を発掘、継承し、発信する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
ラコテ赤塚 【再掲】	佐潟水門下ゴミ拾いを行う。		令和5年5月27日(土) 令和5年8月27日(日)	9人 9人	水門下流域の道路沿いの空き缶などを回収した。	ポイ捨てゴミは少なくなってきた。一方、人目につかないように藪の中に押し込んでいるゴミもある。		佐潟と歩む赤塚の会
潟普請・佐潟クリーンアップ活動 【再掲】	水門付近の保全、ハス田への泥上げなどを通して佐潟の現状を確認する。	  	令和5年9月23日(土)～24日(日)	中学生、大学生、民間企業などの協力を得て延べ100人参加	ヨシは近くの畑に運び、地元の農家が肥料として再利用した。希少種の埋土種子が含まれるドロ約800リットルを観察園の池に投入し、人為的かく乱を起こした。	ヨシの運び出しが予想以上に早く終わった。参加人数に応じた作業量の確保が必要だった。		佐潟と歩む赤塚の会
春の潟普請 【再掲】	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	  	令和6年3月30日(日)	20人	当日、天気は良かったが風が強く肌寒かった。例年に比べて散乱しているゴミは少なかった。	新潟大学の学生らも参加。上潟の大清水まで歩き、湧水箇所を確認できた。		佐潟と歩む赤塚の会

取り組み項目：ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
潟舟体験	潟舟で湖面に繰り出して五感で佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水性植物を観察する。	  	①令和5年4月16日(日) ②令和5年5月3日(日) ③令和5年6月11日(土) ④令和5年6月22日(木) 出前授業 ⑤令和5年6月28日(水) 出前授業 ⑥令和5年7月16日(日) ⑦令和5年8月26日(土) 佐潟まつり ⑧令和5年9月 ⑨令和5年10月9日(月祝) ⑩令和4年9月18日(日) ⑪令和4年10月9日(日)	②23人 ③雨天中止 ④雨天中止 ⑤雨天中止 ⑥雨天中止 ⑦113人 ⑧雨天中止 ⑨雨天中止	「ど」再生事業のため水位を事前に下げなければならず、まつりでの潟舟運行は危ぶまれていた。船着き場桟橋は通常通りには使えないが、なんとか舟を出すことができた。潟灯籠がないこともあり16時を過ぎてもお客さんはひっきりなしで、大勢の来場者を楽しんでもらえた。	潟舟のチラシには「ラムサール条約 湿地自治体 認証記念」などの文言を掲示。市民への啓発を図った。船着場の劣化に伴う改修、潟舟の補修、傷害保険と経費はかさむ。多くの市民に湖上からの景観を楽しんでもらうために工夫をこらす。		佐潟と歩む赤塚の会

基本的な方針Ⅲ

市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。

目標（５）福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進

取り組み項目：ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R6年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
新潟県水鳥湖沼ネットワーク等との連携 【再掲】	新潟県水鳥湖沼ネットワークや佐潟水鳥・湿地センターからの情報提供を受け、ホームページで紹介した。		令和5年10月～令和6年3月	-	毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークや佐潟水鳥・湿地センターからの情報提供を受け、ホームページで紹介した。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。		環境政策課

目標（６）佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開

取り組み項目：ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
佐潟自然散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察する。		令和5年4月8日（土） 令和5年4月22日（土） 令和5年5月13日（土） 令和5年5月27日（土） 令和5年6月10日（土） 令和5年6月24日（土） 令和5年7月8日（土） 令和5年7月22日（土） 令和5年8月12日（土） 令和5年8月26日（土） 令和5年9月9日（土） 令和5年9月23日（土） 令和5年10月14日（土） 令和5年10月28日（土） 令和5年11月11日（土） 令和5年11月25日（土） 令和5年12月9日（土） 令和5年12月23日（土） 令和6年1月13日（土） 令和6年1月27日（土） 令和6年2月10日（土） 令和6年2月24日（土） 令和6年3月9日（土） 令和6年3月23日（土）	341	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察した。 12月23日（土）大雪のため中止とした。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟写真展	佐潟周辺の自然や景色の写真を公募し、展示する。		令和5年10月7日（土）～ 令和5年10月29日（日）	16	応募者数16名、応募者点数30点、自然豊かな佐潟を写真撮影した作品を募集し展示した。	自然の宝庫である佐潟周辺で撮影した写真を来館者に観ていただき感動を与えた。		佐潟水鳥・湿地センター
小鳥さえずる佐潟で春散歩	ボランティア解説員の案内で春の佐潟を散策し、野鳥を観察する。		令和5年4月15日（土）	12	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、春の野鳥や植物を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探検隊（さかたん）	小学生に佐潟で自然体験を通し、自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらうため通年企画 ①ハスの移植・潟舟体験 ②水辺の生きもの観察 ③自然体験（ネイチャーゲーム） ④冬鳥観察・終了式		①令和5年5月27日（土） ②令和5年8月19日（土） ③令和5年9月16日（土） ④令和5年11月18日（土）	9	佐潟と歩む赤塚の会や外部の講師、ボランティア解説員の指導や案内で観察舎脇にハス移植、潟舟乗船、水辺の生き物観察、佐潟の植物を利用して焼き物の皿作り、冬鳥の観察を行った。	全4回の体験を通して、春夏秋冬の佐潟の自然の豊かさを体験してもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
初夏の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、初夏の植物を観察する。		令和5年6月3日（土）	11	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、植物を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
水辺の生きもの観察教室	ボランティア解説員の案内で佐潟の水辺の生きものを観察する		令和5年7月1日（土）	7	小学生を対象に、佐潟ボランティア解説員の案内で水辺の生きものを採集し、観察した。イベント終了後、採集した生きものは潟へ戻した。	佐潟公園で水辺の生きものを採集し、観察したり解説を聞きながら自然に親しみ、自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
夏休み佐潟昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で夏の佐潟の昆虫を観察する。		令和5年7月29日（土）	7	佐潟ボランティア解説員の案内で観察舎周辺までの昆虫を採集、観察した。	佐潟公園のさまざまな昆虫を採集、観察、リリースするという体験を通し、楽しみつつ学習できた。		佐潟水鳥・湿地センター

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R5年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
秋の佐潟昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で秋の佐潟の昆虫を観察する。	 	令和5年9月2日（土）	11	佐潟ボランティア解説員の案内で観察舎周辺までの昆虫を採集、観察した。	佐潟公園のさまざまな昆虫を採集、観察、リリースするという体験を通し、楽しみつつ学習できた。		佐潟水鳥・湿地センター
秋の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、植物を観察する。	 	令和5年10月7日（土）	11	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、植物や野鳥を観察した。	早春の植物や野鳥などの自然解説を聞きながら自然に親しみ自然豊かな佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
冬鳥ウオッチング	ボランティア解説員の案内で佐潟の冬鳥を観察する。	 	令和5年12月2日（土）	1	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟文化祭	佐潟に関する絵、写真、書、俳句等の作品を募集し展示する。	 	令和6年2月3日（土）～ 令和6年2月25日（日）	17	応募者数17名、応募点数34作品 (写真24点、手芸2点 短歌等2点)	佐潟に魅力を感じている佐潟リピーターや来館者に作品発表の場を提供した。来館者に佐潟の魅力発見や癒しの場として楽しんでもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探検隊・サカタン	ハスの移植、潟舟を体験する。 (ハス再生について学習し、潟に入って移植作業)	  	令和5年5月27日（土）	小学生4人	第1回のテーマはハスの移植、潟舟体験。歩む会は講師役、船頭として協力した。	「潟舟が楽しかった」との感想が多く寄せられた。来年も同様の講座を開催するならば、移植する苗の確保など事前準備を確認したい。		佐潟と歩む赤塚の会